

2009年6月18日
株式会社日立製作所

エンタープライズ向けディスクアレイサブシステムで提供している ボリューム容量仮想化機能「Hitachi Dynamic Provisioning」を強化

業務アプリケーションデータの再配置を自動的に実施できる機能などを追加し、全世界で販売開始



Hitachi Universal Storage Platform V



Hitachi Universal Storage Platform VM

株式会社日立製作所(執行役会長兼執行役社長:川村 隆/以下、日立)は、このたび、エンタープライズ向けディスクアレイサブシステム「Hitachi Universal Storage Platform V(日立ユニバーサルストレージプラットフォーム ブイ)」(以下、USP V)とエントリモデル「Hitachi Universal Storage Platform VM」(以下、USP VM)で提供しているオプション機能で、仮想化によりディスクアレイの容量使用効率を最大化できるボリューム容量仮想化機能「Hitachi Dynamic Provisioning(日立ダイナミックプロビジョニング)」(*1)を強化します。具体的には、ディスクアレイの容量を追加した場合に、稼働中の業務アプリケーションデータの再配置を自動的に実現するという機能を追加し、6月19日から全世界で販売を開始します。

今回の強化により、ディスクアレイの容量を段階的に追加する場合に、実記憶領域全体でデータ配置を均一化できるため、サーバなどからの一部のハードディスクドライブへのデータアクセスの偏りを防ぐことにつながります。これにより、安定した性能を確保するだけでなく、金融や製造業界など、さまざまな業界で増加し続ける企業データに柔軟に対応できます。

*1 Hitachi Dynamic Provisioning : ディスクアレイの実装容量に依存せずにサイズの大きな仮想容量を定義できるため、複雑な容量設計を不要にします。これにより、ディスクアレイの容量使用効率を最大化し投資対効果を向上するほか、ディスクアレイシステムの省電力や運用管理コストの改善にも繋がります。

さらに、既存の業務アプリケーションデータを削除した際に、サーバ側の設定変更やシステムを停止することなく、その割り当てられている領域を解放できるほか、データ容量が必要な別業務への再活用を行う場合にも、データの再配置を自動的にできるようになります。これにより、業務ごとのシステム環境の変化に合わせてデータを削除する場合に、サーバ側の設定変更やシステム停止を不要にするだけでなく、ディスクアレイの容量の効率的な運用が柔軟に、かつ容易に可能となるため、管理コストの削減にもつながります。

なお、日立は、2009 年後半を目処に、スプリンクラーの誤作動などの外的障害要因を USP V や USP VM が受けた場合にも業務を止めずに、システムの継続稼働を支援するディスクアレイコントローラのクラスタリング機能「Hitachi High Availability Manager(日立ハイアベイラビリティマネージャー)」を USP V、ならびに USP VM 向けに提供する計画です。本機能は、同一のサーバに接続する 2 台のディスクアレイ間で、業務アプリケーションなどのデータを複製するとともに、データ入出力パス管理ソフトウェア「Hitachi Dynamic Link Manager(日立ダイナミックリンクマネージャー)」と連携し自動的にデータへの入出力パスを切り替えることができるため、業務アプリケーションデータへの継続アクセスを可能にします。

日立は、今後も、金融業界をはじめ、さまざまな分野に仮想化技術を核として、業務効率を最大化し、TCO の削減を支援するストレージソリューションの提案、導入を積極的に進めていきます。

■製品の価格・出荷時期(国内)

名称	価格(税込)	出荷時期
Hitachi Dynamic Provisioning 「ボリューム容量仮想化機能」	220 万 5,000 円～	2009 年 6 月 19 日 ^(*2)

*2 :今回、機能強化する「Hitachi Dynamic Provisioning」の出荷時期です。

■「Hitachi Universal Storage Platform V」、「Hitachi Universal Storage Platform VM」について

顧客業務に重点を置き、顧客自身が複雑なシステム構成やその運用を意識しなくてもストレージ資産の最適な活用を実現するという統合ストレージソリューションコンセプト「Services Oriented Storage Solutions」に基づき、2007 年 5 月に USP V を、2007 年 9 月に USP VM を全世界で販売開始し、2008 年の実績としてエンタープライズ市場で、世界シェア No.1^(*3)を獲得しました。2009 年 3 月末までに、ストレージ仮想化機能を搭載した USP V をはじめとするディスクアレイサブシステムを、全世界で約 12,600 台出荷しています。

*3 :容量ベースでのシェア、IDC の数値をベースに日立算出

■「日立 uVALUE コンベンション 2009」出展について

日立は、2009 年 7 月 22 日～23 日に東京国際フォーラムで開催する「日立 uVALUE コンベンション 2009」において、USP V や USP VM を出展し、ボリューム容量仮想化機能「Hitachi Dynamic Provisioning」を紹介します。

「日立 uVALUE コンベンション 2009」オフィシャルサイト：<http://hitachi-uvcon.com>

■日立ストレージソリューションに関するホームページ

<http://www.hitachi.co.jp/storage/>

■他社所有商標に関する表示

記載の会社名および製品名は、各社の商標もしくは登録商標です。

■**取り扱い事業部・照会先**

株式会社日立製作所 情報・通信グループ

RAID システム事業部 事業企画本部 製品企画部 【担当:田渕、印南】

〒250-0872 神奈川県小田原市中里 322-2

TEL:0465-49-1111(大代表) 内線 5788、5761

以上

このニュースリリース記載の情報(製品価格、製品仕様、サービスの内容、発売日、お問い合わせ先、URL 等)は、発表日現在の情報です。予告なしに変更され、検索日と情報が異なる可能性もありますので、あらかじめご了承ください。
